

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県及び長野県飯田市	地域再生計画名	高速交通網の効果を飯田市の地域社会経済振興にいかすための道整備計画
計画期間	令和５年度～令和９年度	評価責任者	飯田市企画部企画課 課長		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標の 達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度						
	目標 1	U I ターン移住者数の増加	104 人/年	R 3	136 人/年	R 7	156 人/年	136 人/年	R 9	○	指標 総数		達成 数
	目標 2	遠山郷の観光入込客数の増加	56, 200 人/年	R 3	113, 000 人/年	R 7	166, 900 人/年	113, 000 人/年	R 9	○	3		2
	目標 3	林産事業量の増加（木材の搬出量）	5, 270 ㎡/年	R 3	13, 900 ㎡/年	R 7	12, 037 ㎡/年	14, 400 ㎡/年	R 9	×			
②事業の進捗状況													
事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
		計画	中間年度 （R 7）	最終実績 見込み									
特別措置を適用して行う 事業	市道整備事業（整備延長）		1, 690m	545m	1, 690m	○ 市道整備全体の進捗は、若干遅れており路線ごとの状況は次のとおりとなっている。 ○ 市道2-73号尾林ハノ倉線の整備により、遠山地域へのアクセスが向上し観光入込客の増加に繋がっており、R9年度には完了するよう、引き続き、計画に則した整備を目指していく。 ○ 市道座光寺168号線他については、道路整備を進めてきているが、長野県の施工区間である橋梁工事において、地質が想定以上に悪く橋梁下部工の基礎及び工法の再検討に時間を要しており、また、物価高騰に伴う資材費及び人件費の上昇、更に橋梁基礎工法変更に伴う負担金の増額が見込まれる。このため、事業費の増額変更及び事業期間の延長を行い、中央自動車道路とリニア中央新幹線長野県駅（仮称）と繋ぐ当該路線について、引き続き、計画に則した整備を目指していく。 ○ 市道1-56号万才線他については、道路整備を進めてきているが、物価高騰に伴う資材費及び人件費の上昇、更に産業振興・人材育成の拠点「エス・バード」の敷地買収において、管理者（南信州広域連合）及び長野県から影響（潰れ地）を最小限に抑えるよう要望があり、新たに構造物を設置する工法へ変更が必要となったため事業費を増額する必要がある。また、事業用地内に未相続地が含まれており、複数の関係権利者との協議・交渉に時間を要している。このため、事業費の増額変更及び事業期間の延長を行い、エス・バードへのアクセス道路となる当該路線について、引き続き、計画に則した整備を目指していく。							
	林道整備事業（整備延長）		1, 103m	512m	1, 103m	○ 林道整備全体の進捗は、若干遅れており路線ごとの状況は次のとおりとなっている。 ○ 林道赤石線、千遠線及び松川入線の整備により、森林整備が円滑に進められ、また通行の安全確保が図られている。物価高騰による資材費及び人件費の上昇に対応し、法面上部の新たな崩落危険箇所も含めて安全対策工事を行うため、千遠線及び松川入線について事業費の増額変更及び事業期間の延長を行い、引き続き、計画に則した整備を目指していく。							
	うち林道の保全対策 2 路線		85m	11m	85m	○ 林道の保全対策（橋梁保全）の進捗は、若干遅れている。これは安全確保のため同一路線の崩落危険箇所の対策工事を優先したためであり、実施年度の見直しを行いR9年度には完了するよう、引き続き、計画に則した整備を目指していく。							
その他の事業	（1）森林資源活用推進事業		○ 市産材使用の住宅新築・リフォームに対する補助金交付、制度の周知 ○ エス・バードを活用した材木・木材製品の展示販売			○ 市産材を使用した、個人の住宅への新築やリフォーム及び多数の者が利用する民間建築物（非住宅）や、市有施設、公的施設等へ補助金を交付した。また、事業者等へ補助制度の周知を行い、市産材の利用促進を図った。 ○ エス・バードにおいて材木や木材製品の展示等や、リニア駅前広場に整備する木造大屋根に関する講演会を開催し、市産材や地域産材の利用促進を図った。 ○ 今後も市産材の利用・流通促進のための取組みを継続して実施する。							
	（2）森林づくり推進事業		○ 森林整備を行った民有林への補助金交付 ○ 基金等による森林整備等 ○ エス・バードを活用した森林学校や林業技術講習会の開催 ○ 集材機・ドローンを活用したスマート林業の取組			○ 森林整備を行った民有林に対し、国・県補助事業に係る嵩上げ補助や林地残材等未利用材の搬出について補助金を交付した。 ○ 基金等を活用した市町村森林整備支援事業（ライフライン、緩衝帯整備）や架線集材社会実装調査を行い、森林整備を実施した。 ○ 森林学校や林業技術講習会については、エス・バードの活用に向けて検討を進めている。 ○ 高性能林業機械（油圧式集材機）を導入する林業経営体へ補助金を交付し、施業の効率化・省力化を推進した。また、ドローンにより撮影した空撮画像を活用し、森林所有者境界の精度向上を図り、適切な施業範囲を決定した。 ○ 今後も森林の持つ多面的機能を発揮し、森林づくりの担い手を育成するための取組みを継続して実施する。							
	（3）遠山郷観光戦略プロジェクト（エコ登山）		○ トレッキング等のガイドが活躍できる場、仕組みづくり ○ コンパス登山届出システム・ココヘリ等デジタル技術を活用した安全・安心なエコ登山の取組			○ 遠山ジオガイド養成講座やスキルアップ研修を開催しガイドの育成に取り組んだ。また、南アルプス「エコ登山」の認知度向上のため、登山相談所の運営支援や新たなエコトレを運用するとともに、登山バスによる二次交通の運行構築に向けた調査研究を実施した。 ○ コンパス登山届出システムを管理する会社と協定を締結し、登山計画書の提出にシステムが活用されている。ココヘリ（専用小型発信機）の導入により、有事の際の迅速な対応が可能となり安全安心な「エコ登山」の実現に向け取り組んでおり、命に別条なく遭難者を発見することができた。 ○ 今後も「エコ登山」の魅力を伝え、安全・安心な「エコ登山」の実現に向けた取組みを継続して実施する。							
	（4）遠山郷の魅力発信		○ 体験プログラムを活用した地域外との交流 ○ 地域の暮らしの情報発信、森林資源を活用した取組による地域内外の人々が交流する拠点づくり			○ 体験プログラム「遠山郷しぜんとあそぼう」により、県外から個人や団体の受入を継続することで、リピーター確保や年間を通して地域に通える継続的な体験プログラムの工夫に取り組んだ。また、新たな取組として保育園ショート留学事業及びお試し住宅整備により移住ターゲットである子育て世代と地域交流を深めた。 ○ 公式SNSを子育て中の保護者が中心となって運営し、地域外からの関係人口創出や来訪者に繋がる効果が表れており、また保育園の裏山を整備した遊び場作り、小学校夏休みキャンプでの木工体験のほか自然体験活動研修会開催等により、森林資源の活用検討を行った。 ○ 今後も事業を継続し、新たな事業展開に取組む。							

②事業の進捗状況		事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
			計画	中間年度（R7）	最終実績見込み	
その他の事業	以下の事業は、他の地域再生計画による取組					
	(5) まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄付を行った法人に対する特例 (信州大学航空機システム共同研究講座における学生及び講座運営支援計画)	○ 信州大学航空機システム共同研究講座の受講生に対する支援による高度人材の育成		○ 「航空機システム共同研究講座」を発展・再編した「次世代空モビリティシステム共同研究講座」を開講し、同講座を核としたコンソーシアムを立ち上げ、産学官連携による研究開発および人材育成の体制を構築した。シンポジウム等を通じた地域への情報発信、ワークショップ参画による地域企業の参入・技術理解の促進、修士生による研究発表会など、年間を通じて精力的な活動を展開し、研究成果の発信と人材育成を進めた。		
	(6) まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄付を行った法人に対する特例 (飯田市まち・ひと・しごと創生推進計画)	○ 地域産業の強化、UIターン相談者対応の強化 ○ 小中連携等による教育課題対応、人形劇を通じた国際交流 ○ 若者の結婚支援等の充実、各種の保健福祉政策 ○ リニア中央新幹線・三遠南信自動車道開通を見据えた駅周辺の整備、二次交通の構築		○ 信州大学がエス・バードにおいて進めるグリーン水素生成研究の実証タウンとして、エネルギーの脱炭素化と域産域消に向けた飯田市水素利活用ビジョンを策定した。引き続き信州大学の研究に協力し、エネルギーの脱炭素化と域産域消を進めていく。移住前に仕事と暮らしを体験できるお試し移住体験プログラムでは、事前にオンライン等で相談を重ね、相談員との信頼関係を構築しつつ、希望者に合った体験プログラムを提供した。 ○ 各中学校区内の小中学校を「学園」として小中一貫教育を進めている。義務教育9年間の学びの系統性と連続性を高めるとともに、地域とのつながりを生かした探究学習を進めている。 日本最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」をはじめ、保育園や小学校での人形劇の巡回公演、学校人形劇における人形製作や演技指導などに取り組んでいる。 ○ 若者の結婚による新生活の経済的負担を軽減し、スタートアップを支援するため、住宅にかかる費用を補助する結婚新生活支援事業に取り組んだ。 子育て家庭の経済的負担軽減を図るため、3歳未満児の保育料と3歳以上児の副食費の軽減を継続して取り組んでいる。 ○ リニア駅前広場交流施設(仮称)の基本設計を行った。また、リニア駅前広場に接続するリニア停車場線、リニア停車場線及び、土曾川横断道路の左岸側下部工及び上部工工事に着手した。飯田市地域公共交通改善市民会議を開催し、市民、交通事業者、行政等が一体となり、持続可能で利用しやすい公共交通の実現に向けた課題や取組について協議した。		
	(7) 地方創生推進交付金 (長野県UIJターン就業・創業移住支援計画)	○ 県外からの移住就業者・創業者等に対する移住経費への助成 ○ 起業に要する経費への助成、起業後のフォローアップ		○ 県外からの移住就業者及び創業者等に対し移住に要する経費を助成し、UIJターン移住者を増加した。 ○ 起業に要する経費を助成するとともに、起業後のフォローアップを実施して伴走支援を行った。		
	計画外で独自に実施した事業	公開型GISの活用	○ 市民の利便性向上		○ 公開型GIS「いいだWebまっぷ」を運用開始し、公共施設やハザードマップ等のデータを順次公開し、特に、「クマ・サル出没マップ」公開により市民や林道利用者の安全確保につなげた。市の広報手段としても有用であり、今後も随時情報更新していく。	
③評価方法		地域再生計画中間評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。				
④中間評価の公表方法		飯田市ウェブサイトに掲載 https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/13/chiikisaisei-chukan.html				
⑤計画全体の総合評価		○ 当該地域再生計画では、地方創生道整備推進交付金を活用した市道整備と林道整備により、森林から切り出した木材を大規模製材施設へ運搬し、中央自動車道や産業振興と人材育成の拠点へと結ぶ輸送ルート及び三遠南信自動車道から南アルプスへのエコ登山等の来訪者を安全に導くルートを確立し、合わせて森林資源活用・森林づくり、遠山郷の観光戦略・魅力発信に取り組むことにより、関係人口、交流人口や定住人口の増加、地域産業の振興を通じた地域の持続的発展を目指している。 ○ 各路線の諸条件や物価高騰等による事業費の増大の影響を受け、事業量は伸びていないものの、その他の事業との連携により【UIターン移住者数の増加】及び「遠山郷の観光入込客数の増加」は中間年度の目標値を上回り、また「林産事業量の増加(木材の搬出量)」については中間年度の目標値を下回ったものの、着実に効果が現れてきている。				
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況			有りの場合その具体的内容		
	地域再生計画の見直し（有・無）			○ 計画上の道路整備を行うことで、地域間のネットワークが強化され、目標は概ね達成される見込みであるが、事業進捗状況が若干遅れている。このため、中間評価の結果を踏まえ、事業費を増額し、事業期間を2年延伸する。		
	令和9年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 317,273千円			○ 物価高騰に伴う資材費及び人件費の上昇、また現場の諸条件に対応するため、市道及び林道の事業費を増額する。		
⑦今後の方針等に対する対応		○ 事業費の増額及び事業期間延長に伴い、計画の変更の認定申請を予定 ○ 市道座光寺168号線他、市道1-56号万才線他、林道千遠線、林道松川入線の見直しに伴う、事業費の変更 ・市道の事業費 認定時 1,248,000千円→見直し後 1,786,000千円〔538,000千円（うち交付金269,000千円）増〕（見込み額） ・林道の事業費 認定時 377,300千円→見直し後 473,847千円〔 96,547千円（うち交付金 48,273千円）増〕（見込み額） ・総事業費 認定時 1,625,300千円→見直し後 2,259,847千円〔634,547千円（うち交付金317,273千円）増〕（見込み額）				